

2021年5月吉日
学校法人いいづな学園事務局

2020年度 学校評価のまとめ ～ グリーン・ヒルズ 小学校、中学校～

1. 本年度の学校評価への取り組み

いいづな学園では、学校を運営する上での課題を明確にし、次年度の重点目標を設定するために、本年度より学校評価に取り組むこととした。また、学校関係者の思いや要望、教職員の思いや要望を的確に把握するためにも学校評価システムの構築に取り組んだ。

学校評価の流れ

| | |
|----------|---|
| 2021年1月 | 保護者アンケートの実施 |
| 2021年 2月 | 保護者アンケートを受けての自己評価 |
| 2021年 3月 | 保護者に保護者アンケート結果を報告 評価者に保護者アンケート・内部評価を公表、外部関係者評価実施 |
| | 評価方法:保護者・自己評価を受けての意見聞き取り及びアンケート調査 |
| 2021年3月 | 理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告 |
| 2021年 9月 | ホームページに公開 |

2. 自己評価の結果について

保護者アンケートについては、肯定的評価が増しているが、Cの評価があり注意深い考察が必要と思われる。結果参照。

3. 外部関係者評価の結果について

評価を依頼した。両氏ともに、保護者アンケートを反映した評価となっている。

今年度の評価者は、「①地域から1名」及び「②学校教育活動に協力して頂いた方1名」に依頼した。両氏ともに、保護者アンケートを反映した評価となっている。活動報告を行い、聞き取り調査を行う中で、学校運営や広報についてのご意見を頂いた。今後活かしたい。

4. 来年度への課題

今年度の目標としてきた「自然体験活動を重視する中で、プロジェクト学習や基礎学習の向上をはかる」という点に関して、自然体験からプロジェクトへのつながりについては、成果が定着してきたものの教育課程や基礎学習との繋がりが見えにくい。

来年度は、国際バカロレアの認定に向けて、カリキュラムの作成を進め、丁寧にすり合わせるとともに、基礎学力についても広げていこう丁寧な指導を行い、「自ら学ぶ姿勢」が身につくようつよくサポートしていく。

2020年度 グリーン・ヒルズ評価シート

2020年度グリーン・ヒルズの学校評価は以下のとおりとなりました。

A:評価できる B:やや評価できる C:やや評価できない D:評価できない

※ 評価段階 : A > B > C > D

| 項目 | | 評価 | | | | |
|---------------------------------------|---|---|-----|----|----|----|
| | | 児童生徒 | 保護者 | 内部 | 外部 | |
| 達成の 教育目標 の 教育課程 への 満足度 | 1 | 先生は、子どもの学習に対する自律性を確立できる教育を行ったと評価できる。 | | B+ | B+ | A |
| | 2 | 先生は子どもたちが助け合い、お互いのことを考えられる関係性の確立を達成したと評価できる。 | | B+ | B | A |
| 達成の 教育目標 の 教育課程 への 満足度 | 3 | グリーン・ヒルズは、子どもたちが学習意欲を満足できる学習と活動を提供していると評価できる。 | | B | B | B |
| | 4 | グリーン・ヒルズは、子どもたち自ら学習したいと思える活動を提供していると評価できる。 | B+ | B+ | B | B |
| | 5 | グリーン・ヒルズでは、子どもたちが担任や友人との信頼関係が構築されていると評価できる。 | B | B | B | B+ |
| | 6 | グリーン・ヒルズは、子どもたちが満足する学校生活を提供していると評価できる。 | B | B+ | B | B+ |
| 保護者の 意見 | <p>小) 本人が自分で考え決めたことを応援してくれ、先生も本音で話してくれる時があって嬉しいと言っていました。</p> <p>小) これからも自分のペースで学んでいける体制であってほしいです。学校内で手が足りないことがあったら、できる範囲でお手伝いできたらいいなと思っています。</p> <p>小) 小学校にはほぼ満足していますが、中学校には少し不安を持っています。現状では正直魅力を感じません。他にも不安を持っている保護者がいると思うので、保護者の意見を聞きながら、より良い中学校になってほしいと思います。</p> <p>中) 少人数だからその「対話力」に期待しています。</p> | | | | | |
| 内部評価 | <p>学校の目標である「自律性の伸長」と「関係性の深化」の項目はほぼ評価が定着しているものの、A評価の減少がみられ満足度が低下している。個々の内容について検証し対策をしたい。リンゴ園、SDGsへの取り組み等小学校のプロジェクトの評価は高いが、中学校のプロジェクトへの課題が大きい。思春期の生徒の気持ちに沿うことと、自律学習者として自ら学ぶという姿勢については、動機の確立が不十分であった。</p> <p>今年度の重点目標「自然体験活動を重視する中で、プロジェクト学習や基礎学習の向上をはかる」については、前年度からプロジェクトなどの活動や、疑問を追求する姿は充実してきているが、学習指導要領との関連及び基礎学習との結び付けについて検証が必要である。</p> | | | | | |
| 外部 評価 の 意 見 | <p>1. 教育活動への満足度について プロジェクト、自治活動、基礎学習というグリーンヒルズの3本柱への保護者の満足度が下がっている。その要因と、不満の具体的な内容を探り、次年度への指導手立てを講じたい。</p> <p>2. 児童生徒の成長について 「自律性」「関係性」の成長について、保護者評価が下がっている理由と原因を探り、次年度への指導手立てを講じたい。保護者が「自律性」として期待している児童生徒の育ちがどのような姿なのかも探れるといい。</p> <p>3. 子どもの様子や気持ちに関する親の見取り 相対的にどの項目も保護者評価が落ちている。それぞれの質問項目は、教育活動の何を測る指標としているのか、保護者の回答結果の先に教職員が何を見たいのかがわかりにくいように思った。</p> <p>4. 自由記述から 保護者からの学校への信頼が感じられる。 中学校への保護者の不安が複数出ているが、だれがどのようにその対策を講じるのかが気になった。</p> <p>5. 学校運営について 生徒数の確保が課題である。教育の支えとなる学校運営の充実が急務であり、広報とともに、明確なアドミッションポリシーを掲げて生徒数の確保をはかってほしい。</p> | | | | | |
| 来 年度 の 課 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、生徒数の減少により集団活動の成立が難しい(特に中学校)。教育内容の充実し魅力あるものにすると共に広報を検討する必要がある。 ・自然体験活動をカリキュラムへ位置づけるとともに、国際バカロレアの過程と、教育課程への位置づけを行う。 | | | | | |

【次年度の重点目標】

「自然体験活動の充実と、「プロジェクト」による探究力の育成」

「多様な文化や考え方を尊重し共生できる人を育てる」

今年度の目標をさらに深め、飯綱高原の豊かな自然のなかにある特性を活かし、自然と積極的に触れ合うことにより、感性豊かな人間性と創造性を備えた子ども、人が持つ違いを違いとして理解し、世界の多様な文化や考え方を尊重し、共生できる人を育てる。